

心理学研究室（佐藤隆弘）

▶佐藤隆弘先生はどのような研究や活動に取り組んでいますか？

私が主に担当している科目は「教育心理学」です。この授業では、子どもの発達のプロセスや学びの仕組みなどを取り上げています。学生の皆さんには、この授業を通して、教育・保育、子育て支援に役立てるための基礎知識を身につけてほしいと思います。他にも、専門教育科目の「子ども家庭支援の心理学」や、共通教育科目の心理学関係の授業なども担当しています。

私の専門とする領域は心理学です。最近では、学生を対象にした調査研究を行っています。例えば、保育を学ぶ学生の保育者効力感（保育者として必要な行動を自分が取れるという感覚）や、子どもを養護することへの関心などの調査研究をしています。他にも、大学生の俗信・迷信に対する態度、情報を吟味し批判的に考える態度の教育、学生の学びの成果を把握する方法などにも関心を持っています。

心理学には様々な方法・立場がありますが、私が基本としている考え方は「行動分析学」という分野です。行動分析学では、人の行動の原因を「環境と行動の関係」に求めます。子どもの困った行動も、これまでの環境との関わり方（経験）や現在の環境に問題があると考えられます。この視点に立つことで、子どもの行動を環境との関係という点から分析し、そして、環境を調整することによって子どもの望ましい行動を育む方法を考えていくことができます。この考え方は実際の保育や子育て支援にとって大変役に立つものです。

▶この研究室やゼミ（4年次）のことについて教えてください。

4年生の卒業研究ゼミでは、乳幼児期から青年期までの発達や学び、保育士を目指す学生の特性など、保育・児童学に関する心理学的なテーマに関する卒業研究を指導しています。基本的には学生が興味を持つ問題について、文献研究、調査研究、実験研究などを行って、その結果を卒業論文にまとめていきます。

研究指導では、それぞれのテーマに沿って文献の読み方、研究の進め方、論文のまとめ方などを説明していきます。また、ゼミ生全員で、各自の研究テーマに関連する文献の紹介や発表会、ディスカッションなども行います。卒業研究は主体的に進めていくことが重要ですので、学生には問題意識を持ち、積極的に取り組むことを求めています。